

街を行く

第100回 中野 Nakano

こんなに昭和が残っていたとは

いやはや、この活気には脱帽で、凄いと言うほかありません。平日の午後ですが、中野のメイン商店街は人で溢れかえっています。冒頭から興奮気味なのは、これほど賑わう街の商店街を昨今、お目にかからなかったからです。小生が子供の頃、いわゆる昭和時代には、日本全国の商店街がみな賑わっていました。地域の人々は時間があれば特段用事がなくとも商店街をブラついていたので、街のトレンドが自然と集まり、カルチャーが形づくられ、町興しそのものとなっていたのです。

いま賑わいといえば、銀座や大阪の心齋橋にみとおり、訪日観光客(多くは中国からの観光客)によってもたらされています。でも中野は、日本人が賑わいの主役でした(中には海外からの観光客もいますが、それ程目立ってはいません)。何がそんなに人々を引き付けているのでしょうか。

昭和における中野の顔は「中野サンプラザ」(いや「丸井」だと言われる方もおられるかもしれません)で、長らく新宿と吉祥寺に挟まれた中央線の停車駅のひとつに過ぎませんでした。当時も人通りや活気はあったものの、人で溢れるほどではありませんでした。

中野の賑わいの理由には、ひとつは大規模な再開発に伴って大企業や教育機関が移転し、昼間の人口が増えたという事実があります。でも小生の目に飛び込んできた多くは通勤通学利用者ではなく、この街に“吸い寄せられてきた方々”です。

商店街のあちこちではお店の呼び込み、ちょうど節分に近い日でしたので



「恵方巻」を売る声が聞こえます。それは威勢の良い声ではなく可愛いく黄色い声でした。時代が変わったのですね。そんな声を聴きつつ商店街を抜け「サンモール」に入りますと、非日常的な世界に入り込んだような違和感に驚かされます。それは異国情緒というか東南アジアの古いショッピングモールを連想させるものです。また、フィギュアの専門店が立ち並び、多くのマニアたちが行き来しています。実は小生もフィギュアは好きな方です、往年のプロレスラーを中心に集めています。また、訪れた海外の街では必ずティベ

アを買うことにしていますので、かなり集まりました。チャンスがあればお見せしたいぐらいです。

……若干話が脱線しましたが、こんなに各種の専門店があるとは驚きでした。何軒も立ち止まり、時間が過ぎるのを忘れてしまいました。全店回るのならば数日は費やしてしまうでしょうね。まさにマニアの殿堂です。

初めの頃に感じた違和感が徐々に心地よいものへ変わるなか、何か恐るべきものを感じました。これが中野の魅力なのでしょうか？